

第5回 福知山市総合計画審議会（概要報告）

- 1 日時 平成27年10月13日（火） 13:30～
- 2 場所 全議員協議会室
- 3 出席 委員 19人（6人欠席）
- 4 次第
 - （1）第7章「行財政の高いまちづくり」
 - （2）長期ビジョン修正案について
 - （3）審議会（1回～3回）の対応

【審議の概要】（○：委員意見、⇒：市側回答）

第7章第1節

○施策1（1）主な取り組みの2つ目、行政評価と予算編成をマッチングさせるだけでも大変な作業が現実であり、人事考課にしろシステムを維持するだけですごい手間で、役所の現場では管理職が大変だと認識している。

すべてを一体的に管理することは、本当にできるのか、と素直に思うが、どうか。

⇒行財政経営マネジメントのシステムの構築ということで、未来創造 福知山の基本計画、行政改革、予算編成や組織の編成を上位計画のプランといたしまして、これを一体的に管理しながらPDCAサイクルを回すシステムを構築していきたいということで表記しました。

○（2）指定管理者制度は10年余りが経過しているが、色々な矛盾が出てきたり、疑念が地域ではたくさん出てきている。

10数年あまりの実績を踏まえて、制度のあり方やPFIなど本当に福知山でできるのか、地域からの見直しをやっていかないと、どこかに押し付けるだけになってしまわないかと思うが。

⇒毎年度指定管理者モニタリングを実施しています。指定管理者からの業務遂行報告及び自己評価を受けて、市が業務遂行確認及び評価を行います。それに基づき必要に応じた業務改善に向けた指導、助言をするという取り組みを行っています。

今後につきましては、サービスの質を上げていくという観点から、第三者による評価の仕組みを導入していこうと考えています。

この第三者評価は、評価の客観性、中立性をさらに高めながら指定管理業務の改善につなげていく思いです。

また、この様に公共施設のより良い管理運営に向けた改善を重ねることにより、指定管理を受けやすい体制をつくっていききたいとも考えています。

○公共施設マネジメントについて、集約化、休眠施設の有効化は必要だと思うが、現実にそれだけ集約して駐車場があぶれたりしないのか、そういう問題が置き去りになって形作りにいっているのではと危惧している。地域の実態や住民の思いもくみ取っていただきたいと思うが。

⇒公共施設マネジメントの効果としては、財政支出の適正化が図れること、公共施設の集約化・多機能化・複合化による公共施設のサービスの質の向上が図れることです。

また、行政と地域住民との連携・協議により、地域が主体となった「地域の将来像」を考える契機となり、そのことにより「まちづくりビジョンの明確化」が図れるという流れです。

○施策2（3）市税をはじめとする税外収入金と書くと、市税が税外収入金であるとしか読めないが。

⇒基本計画修正案で訂正します。

○施策3（1）多様な主体が参画する新しい地域モデルの拡大というのは、あまりにも抽象的でイメージができないので、もう少しつっこんだ表現が必要であると思うが。

⇒具体的には地域協議会のことです。

○ふるさと納税について、読んだ本の中に長崎県平戸市でふるさと納税が14億円集まった。行政がお金を稼ぐ事は厳しいと思うが、そういう仕組みがあって、14億円もあれば他のサービスもどんどん良くなっていくと思う。

ふるさと納税を施策としてお金が入ってくる仕組みがあれば有り難いかな、と思っている。

⇒ふるさと納税は、財源確保のみならず、寄付を通じて地域を活性化させる地方創生に通じる取り組みの一つです。本市の現在の取り組みとしては、大手ネットサイトの「ふるさとチョイス」の掲載手続きを完了し、資料を掲載している状況です。交換商品が13品目ありまして、それぞれ相応しい商品であるということです。

平成27年4月の税制改正でワンストップ特例制度ができました。

1人が5市まで寄付することができます。今までは確定申告が必要でしたが、それを省略して税控除が受けられることになりました。これもPRしながら取り組んでいきたいと思えます。

また、より寄付をしやすい環境の構築のためネット決済についても考えていきます。

○現況と課題にある職員の意識改革について、私は以前子育て支援課で、産前産後の2ヶ月の保育園を希望したが、「いっぱいです」と言われ、終わりだった。1人目のときに2ヶ月間入院したりしたので、私としては鬼気迫る思いで行ったにもかかわらず、かわされたというか、見捨てられた思いがした。正直、二度と来るか、と思った。

120ページのアンケート、旧3町の行政の声が届きにくくなった、ともあるようにそういうところがある気がする。書く、言うだけでなくメラメラと、なおかつ温かく身近で相談できる市であって欲しいという願いをする。

⇒ご不快な思いをされたことについて私からお詫びを申し上げます。案件について可能・不可能に関わらず市民に寄り添えるよう、再教育していきたいと思えます。

○施策1 我々市民団体と市職員の関わりは、取り組みの中でとても重要であるが、市職員のジョブローテーションのペースがあまりにも速すぎて、市民の活動がその流れで大きく変わってしまうという現状である。

3～5年でガラッと人が変わってしまい、継続的に持続可能な状態で色々な事を市民サイドは続けているが、担当者が変わることで取り組みが停滞したり、レベルが下がるといったことが起こっているの、市職員の引継ぎ、プロ化、専門性を持った方が長くいてもらうことも重要ではないかと思う。

⇒人事異動したからといって、市民のみなさまとの連携力、職員の技能・技術が劣ることはあってはなりません。

市役所の限られた時間、予算、人材であることを自覚して継続的な改革を行

っていき、事務が停滞しないように改めて教育していきたいと思います。

○ふるさと納税に興味があり、外の方にもPRしたいと思い、福知山市のHPを見たが、本当にこんなものが欲しいのかなと思った。

魅力的な産品を並べることが非常に重要だと思う。すぐにでもできることだと思うので、改善していただきたい。

⇒記念品については、庁内連絡調整会議等において魅力的な産品が提供できるよう取り組んで参ります。

○施策1(2)指定管理者は、へたをすると民間が萎縮するシステムになるということはきちっと押さえておいて欲しい。

3～5年という短い期間の不安定さが、受託事業者の雇用の不安定をもたらしているという現実を押さえておかないと、行革が縮減計画になってしまふ。活力をつくるという部分が飛んでしまうのではないか。

消費主体から生産主体へという活力づくりの観点を持った行革、あるいは指定管理者のあり方について、是非検討していただきたいと要望する。

⇒指定管理者制度における指定期間については、色々な意見があることは承知していますが、本市においては指定管理者制度の趣旨を十分に生かせるよう、競争性を確保しつつ、各施設の設置目的、利用者の状況、サービスの継続性や安定を踏まえ3～5年を原則としています。

今後については、第三者評価の導入により指定管理者とのパートナーシップを構築し、公共施設のより良い管理運営に向けた改善を図っていきたいと考えています。

○職員の意識改革は大事な部分で、本市の総合計画全体の流れを職員一人ひとりが学べる機会、研修があるのか。嘱託、臨時職員の研修状況はどうなっているのか。

⇒市民の方と接する際に、正職員、嘱託職員、臨時職員という差があってはなりません。部内での研修は行っておりますし、職員倫理の向上のための研修も夏に行いました。

○職員の意識改革について、改善に向けた提案制度を設けてはどうかと思う。

施策1 公共施設の更新問題については、受益者負担の考え方に立っている

と思う。他の行政との利用状況の比較、使用料の算定方式、見直しを行い、利用を上げる。市民サービスの向上に繋がると思うが。また、還付金制度の導入を考えてみてはどうか。

⇒予算編成時期に提案制度は行っております。毎年度取り組んでおり、実現可能なものについて採用している状況です。

○106ページの国の定住自立圏構想について、近隣の市町村とあるが、福知山で立ち上げて、周りの行政を取り囲むという共生のエリアを作ることが妥当ではないか。

⇒定住自立圏構想は、中心市等の位置づけもある中で、現在では京都北部の地域連携都市圏で近隣市町との連携強化の取り組みを行っています。

○先の平戸市の職員の紹介であるが、まちを愛する思いから成功した例である。本市においても職員はまちを愛する気持ちを持っていただきたい。

第7章第2節

○施策1(1)構築型システムから利用型システム、分かるように書いていただきたい。

(2)左側には執行する側の強化もすると書いてあるが、右側にはセキュリティー研修をします、しか書かれていない。

行政職員が業者頼み、業者任せにならない限り、個々の職場単位でも情報化の施策の勉強もしないといけないと思うので、そういったところも書く必要があると思う。

⇒分かりやすい表現に変えていきたいと思います。

(2)書ききれしていないので、補足、完了していきます。

<会長>

情報化の問題について、日本の人々が例えばツイッターなどにいろいろ書き込みます。世界中の人が読む事を想定して書いているのか疑わしい。内向きだけに考えるのではなく、情報化はグローバルに展開しているので、そういうものだとは自覚を持って利用しているのか含めて、相当啓発活動に取り組んで欲しい。

長期ビジョン 修正案

○すべての地域が豊かな生活ができるようにとありますが、都市地域と周辺の農村・山村地域があり、特に周辺地域でコミュニティ自体が壊れていく、なかなかコミュニティが保っていけない状況が起きている。

豊かな生活とは逆行するような保育園の統合問題などがあり、地域の住民も将来に対する夢もない状態にきているのではないかと思う。

地域全域の住民が豊かな生活が送れるような観点から見たときに、どのようにお考えかお尋ねする。

⇒「小さな拠点」日常的な狭いエリアで医療、買物、行政サービスができるようにしようというものでございます。すべてをフルセットで従来どおり残していくというのは難しいですが、エリアの中で生活ができるための機能は揃えていくことは必要だと考えています。それにより、これまでそれぞれの地域が培ってきた歴史、文化を維持していくことによって地域が輝くようなまちづくりをしていきたいと思えます。

○コミュニティが壊れていく中での再生、どのように全体的に活性化させていくのか。「小さな拠点」づくりが理解しにくい。

⇒夜久野地域では、旧役場の跡地にミニスーパーを誘致する動きがあります。このエリアで集中的に日常的な生活は維持できるであろうと考えます。小中一貫校もその一つと考えられます。

○合計特殊出生率が1.96もあるのに、6万人まで減ってしまうのか。

なぜ福知山市は1.96という数字が出せたのか。この原因を調査し、1.96を減らさない施策が重要視されるのではないかと思うが。

長期ビジョンのところに出生率の維持もしくは増加の記載が必要ではないかと思う。

⇒1.96の要因について結論としては、これだという原因は見当たっていません。

ある大学が調査された中で、総合的にさまざまな施策を実施しているところで効果があり、人口が5万人以上ないと流出が多く合計特殊出生率は上がりにくいとされていました。また、製造業の雇用が安定している自治体ほど高いという傾向もあるようです。

目標年次には2.1をめざすものとしていますが、国は2.07でありま

す。

○交流人口倍増戦略、非常に注目しており、交流人口は観光・通勤・買物等で福知山市を訪れる人口であるが、交流人口70人で定住人口1人に相当する経済効果があると言われている。舞鶴市では交流人口300万人の達成を最重点課題とされているようである。

本市でも、定住人口だけにとられず、交流人口も増やしていくという記載が、まちづくりの目標のところに必要ではないかと思うが。

⇒交流人口倍増戦略は、中心市街地活性化の関係でそのエリアに来ていただく人を倍増しようというもので、舞鶴市の300万人を想定しているわけではございません。

交流人口については、非常に大事ですが、策定を進めている人口ビジョンにおいては定住人口に限った表し方をしています。いただいた意見を参考にしたいと思います。

○首都圏、京阪神で2035年くらいの時期になると、医療、福祉がパンクしてしまう。福知山市のような中小都市はまだまだ受け入れられますよ、と老人を呼び込むようなポテンシャルはあるのだな、と感じた。

社人研との差の内訳を知りたい。雇用の場の確保で何人くらい増えるとか、住宅を確保することによって5,000人増えるとか知りたい。

⇒「未来創造 福知山」にすべて書き込むことは困難であります。詳しくは、別に策定する人口ビジョンで出生率の向上や人口増加について記載していません。

○交流人口を重視すべきではないか。なぜ福知山市に人がくるのか、「価値」があるから訪れる、「価値」を作っていく。「価値」を作って、たくさんの方が集まれば新たなビジネスチャンスも生まれてくる。そう考えないと、定住自立圏構想なんて絶対にできない。

○年齢構成別人口と割合の推移の表について、少子高齢化と言われているが、福知山ではあまり高齢化しないのかな、と思い、正確な数字なのか確認したい。

⇒社人研の推計で65歳以上の高齢者の方のピークが2020年22,847

人。割合でいくと高くなりますが、実人数でいくと高齢者の方の人口は減っていきます。

同様の計算方法をしていくと、高齢者の方の人口は増え続けるのではなく、あまり変わらなくなるということです。シミュレーション上の数字は正しいものです。

○定住人口と交流人口を足したものが経済人口なわけで本市では150万人くらいが交流人口といわれている。

今は定住人口と交流人口を併記するのが本流であるといわれているので、交流人口の表記することを要望したい。

⇒本市は昼間人口がH22国調で5%ほど多いので経済人口という表し方もあるのかと思うので検討したいと思います。

○都市構造図の工夫努力はうかがえる。地域交通をどうしていくのか。住民の方が絵をわかりやすく見られるような描き方はないのか、と思うが。

○周辺地域の集落の再編についてお考えを聞きたい。

⇒行政が介入できないので、地域の皆さんで話し合いをしていただくしかないかと思っています。

周辺部については、移住希望者に魅力に映ると聞いており、空き家対策や移住希望者への支援等で行政がかかわり地域に貢献したいと考えています。

○福知山市らしいコンパクトな都市という表現であるが、いわゆるコンパクトシティだとすると、どういう意味なのか、伺いたい。

全国的にみるとコンパクトシティは成功していない。誤解を受けるのではないか。

⇒中心に集めるという意味ではなく、本市は小さな拠点等でどの地域でも生活が送れるような市域をめざすものです。

表現が誤解を招きやすいことについては、少し研究させていただきます。

○小さな拠点等の表現は地方創生の中ででてきた名称であり、現政権の政策であることから恒久的に使う表現ではないのではないか。「日常生活拠点」とかの表現で良いのではないか。

<会長>

小さな拠点を考える時に、生活面だけではなく、集まりでどう村を活性化させていくかのような視点も盛り込んだほうがいいのではないかと。

日常生活の文化的要素は極めて強い。生活の利便性の確保と書くと、利便性だけを強調し、生きがいを感じられる文化的要素が抜け落ちているのではないかと、思ったりもするので、工夫しながら変えていっていただきたい。

⇒小さな拠点はソフト面も含めて考えているので、文字で分かりやすく表現していきたいと思います。

基本計画 修正案（1～4章）

○LGBTの解説を用語集に入れてほしい。

⇒他の用語も含めて用語集に加えます。

○39ページ 障害者の立場から申し上げると、バリアフリーなまちづくりと挙げているが、宿泊施設も新しいホテルも車椅子で利用するには十分でない。だれもが安心して暮しのできる、また、福知山市に訪れるだれもが安心できることに向けての取り組みが必要ではないかと思う。将来の夢、希望である。

<会長>

京都市内だと、アレルギーやイスラム圏の文化の方に向けた食材を提供します、と書かれた宿やホテルがある。

視野は広げて、そういう問題をも含めた情報が共有され、対外的にも発信できるように安心してそういう人々が訪れられる街になることが一番大事だと思います。

⇒高齢者や障害者が利用しやすい施設が一目でわかるようなマップは2009年度に作って以降、残念ながらできていません。充実した物を作るため、今後検討していきます。

○33ページ 情報の発信のところで、前回質問させていただいたが、FacebookのようなSNSを利用するような事は、この5年間はないということか。

⇒現在、LINEで実施はしています。

5年間、やらないということではなく、検討の余地があるということで、SNSなどという表現にしていることをご理解いただきたいと思います。

○44ページの 成果指標 読書というのはどの範囲か。

⇒低学年は絵本など、高学年、中学生だと小説など、個々に差はあります。活字に触れる機会を増やすことが主たる狙いです。

○修正前は読書冊数であるが、これを%にしたということか。

⇒冊数だとなかなか比較しにくかったので、活字に触れる時間を増やしていくというところで、この指標にしました。

○64ページの 安心な水とは。

⇒危機管理を表現する言葉で安心・安全を使用している。例えば漏水や突発事故により日常生活が損なわれることへの安心は必要でありますので、安全に加え、安心を記載しています。